

月刊しばうら

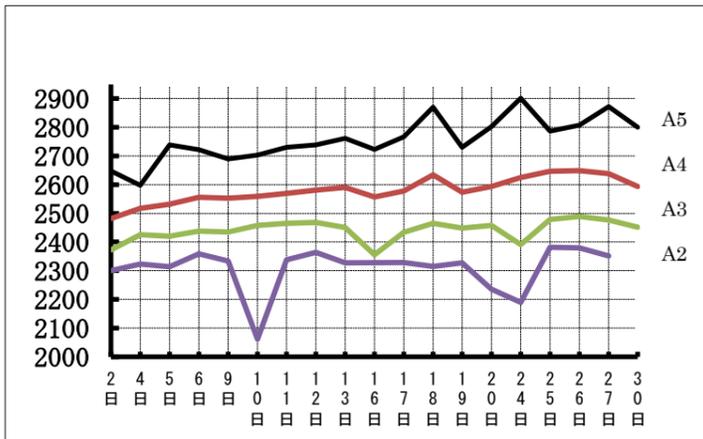
2015年 12月号

大動物事業部

＜11月の相場動向＞

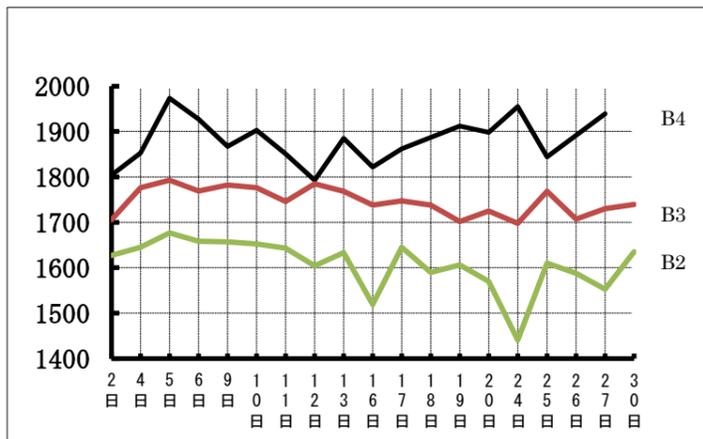
11月の牛枝肉相場は、和牛去勢 A5 が前月比 102 円高、同 A4 は 131 円高、同 A3 は 108 円高、A2 は 84 円高と前月比では 10 月の相場に続き 100 円以上の続伸となった。

和牛去勢 日別相場表（11月）



交雑去勢は B4 が 39 円高、B3 は 30 円高、B2 は 10 円高で、10 月からさらに全面高の相場となり絶対的な供給不足を要因に品種、規格を問わず騰勢相場を形成した。

交雑去勢 日別相場表（11月）



品目	月平均	前年同月比	前月比
B4	1,872 円	125.0%	102.1%
B3	1,753 円	124.4%	101.7%
B2	1,612 円	121.8%	100.6%

乳牛去勢

	月平均	前年同月比	前月比
B3	上場なし		
B2	上場なし		

＜12月の牛肉輸入量予測＞

輸入牛肉通関量		10月	前年同月	前年同月比
フローズン	豪州	14,225	13,132	108.3%
	米国	6,190	11,093	55.8%
	その他	2,065	1,131	182.6%
	合計	22,480	27,477	81.8%
チルド	豪州	11,058	12,312	89.8%
	米国	7,129	7,895	90.3%
	その他	788	3,252	24.2%
	合計	18,975	21,338	88.9%

単位：t 出典：食肉速報

財務省の貿易統計による 10 月の牛肉通関量は前年同月比 15.1%減の 4 万 1,445 t と前年を下回り、前月比でも 4,500 t 強減少した。

チルドは、引き続き各国とも減少、フローズンでは豪州産がわずかに増加、米国産は 4 割以上減少し全体でも 2 割近い減少となった。

農畜産業振興機構による 12 月の牛肉輸入数量予測では、前年比 11.6%増の 3 万 7,900 t。チルドが 1 万 7,800 t で現地相場高や為替の円安などでわずかに下回り、フローズンは前年に円安の進行などで少なかった反動などで同 28.2%増の 2 万 100 t と予測している。

＜12月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構によると出荷頭数の減少傾向が継続しているなか 10～12 月平均の出荷頭数は前年同期比 2.9%減としている。12 月の出荷予測頭数は前年並みの 11 万頭台で内訳は和牛が前年に少なかった反動などで 5 万頭の大台は確保されるものの、多くても前年実績並み。交雑種が前年同月比 2.6%増の 2 万 2,500 頭、乳用種が同 1.8%減の 3 万 3,000 頭としている。東京食肉市場の 12 月と畜頭数は、8,300 頭を予定している。

＜12月の牛枝肉相場見通し＞

牛枝肉相場は、11 月の更なる高値相場を受けて引き続き強気配の相場展開が予測される。この高値の背景には、いうまでもないことながら全国的な肉牛の絶対数不足がある。

消費者の牛肉離れが懸念される中で、年末の牛肉最需要期でもあり下げ材料は少なそうだ。

和牛去勢	相場予測	交雑去勢	相場予測
A5	2,600～2,700	B4	1,750～1,850
A4	2,450～2,550	B3	1,650～1,750
A3	2,300～2,400	B2	1,500～1,600
A2	2,150～2,250		
乳牛去勢			
B3	1,200 ～		
B2	1,100 ～		

小動物事業部

農林水産省が発表した食肉流通統計によると、10 月の全国と畜は 144 万 3,149 頭（前年同月比 101.0%）となり前年より増加した。

10 月分の豚肉通関実績は、総量で 7 万 5,881t（前年同月比 75.9%）と前年より大幅に下回った。うちチルドは 3 万 1,599t（同 108.9%）と増加した。内訳は米国が 1 万 8,362t（同 105.0%）、カナダは 1 万 2084 トン（同 115.9%）、メキシコが 1,125t（同 103.2%）と増加。フローズンは、4 万 4,282t（同 62.4%）と前年を大きく下回り、デンマークが 1 万 1,132t（同 55.0%）、米国が 4,803t（同 45.3%）、カナダが 3,890t（同 46.2%）、メキシコが 5,743t（同 124.0%）であった。

＜11月の豚取引の推移＞

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
2日	69,800	488	460	683
4日	70,900	472	442	1067
5日	69,200	470	441	1156
6日	68,900	462	440	1025
9日	67,100	449	433	1039
10日	68,100	451	431	1201
11日	67,900	449	433	747
12日	69,300	460	443	911
13日	68,000	465	444	1018

上旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 6 万 8,800 頭と前年並みの頭数で、当市場は平均 980 頭と前年を上回った上場頭数であった。バラは鍋物需要もあり 10 月に引き続き堅調であった。相場が下がったことで量販店では国産品の特売なども増えてきたものの、末端需要はそれほど芳しくなかった。一方、輸入品は国産相場が下がったことによって全体的に動きが鈍い状況であった。上物価格も二週目に入り 480 円から 450 円まで下げ基調で推移した。

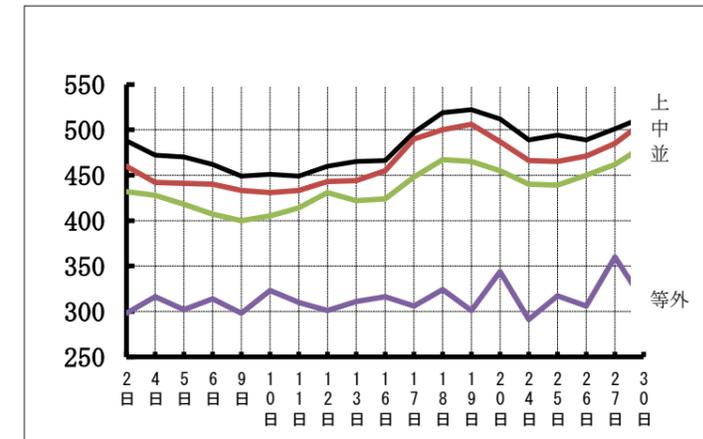
中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
16日	65,500	466	455	854
17日	68,500	497	490	1173
18日	65,800	519	500	901
19日	69,300	522	506	815
20日	68,100	512	487	1170

中旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 6 万 7,400 頭と前年を上回り、当市場は、平均 1,000 頭の上場で前年並みの頭数であった。末端需要は今一つの状況であったが、3 連休前の手当て、12 月に向けた発注もあり上物相場は 460～520 円と相場が上昇してきた。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
24日	72,000	489	466	945
25日	68,500	494	465	1151
26日	68,500	489	471	1057
27日	69,800	501	485	1035
30日	66,100	514	509	986

下旬の全国と畜頭数は平均 6 万 9,000 頭、当市場の上場頭数は平均 1,000 頭と前年並みの上場頭数となった。ようやく寒さが厳しくなり鍋物需要で本格的にバラの引き合いは強まってきた。また量販店では小間材やひき材などの特売もみられスソ物の動きも良化してきた。上物価格は 3 連休明けに一旦下げたものの 480～510 円と底上げしてきた。

豚 日別相場表（11月）



＜12月の豚枝肉相場見通し＞

農水省による 12 月の全国と畜頭数は、155 万 7,000 頭（前年同月比 106.0%）と予測しており一日当たりの頭数は約 7 万 4,100 頭である。当市場の 12 月の集荷予定頭数は約 2 万頭となっており、一日当たりでは約 900 頭の見込みである。

一方、農畜産業振興機構による 12 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 6 万 4,600t（前年同月比 114.0%）の予測となっている。内訳はチルドが 2 万 7,400t（同 98.4%）、フローズンは 3 万 7,200t（同 129.0%）の予測である。

また 9 月における豚肉推定在庫量は、国産品が 1 万 5,277t（前年同月比 74.5%）、輸入品は 15 万 4,471t（同 80.5%）となり合計 16 万 9,748t（同 80.0%）となった。推定出荷量は 14 万 4,878t（前年比 108.0%）で前年を上回った。うち国産品は 7 万 3,485t（同 101.1%）輸入品は 7 万 1,394t（同 116.2%）であった。国内生産量は 7 万 1,904t（同 99.1%）と 3 か月連続で前年を下回った。

このような状況の中、12 月は出荷頭数の増加が予測される。例年通りの年末需要はあるものの、昨年のような PED の影響による品薄感はなく、高値相場は考えにくいものの上場頭数に連動した形の相場展開になるものと予測する。よって、平均上物 580 円 中物 560 円前後を予測する

出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、東京食肉市場では防疫体制を強化しております。来場の際における生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL <http://www.tmmc.co.jp/>